

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 82 号（令和 7 年 6 月発行）

令和 7 年は、3 月に第 1 回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

中川雅晶議員



主な質問項目
・国際拠点港湾としての取組について

- 海外港湾事情調査団として 11 月にベトナムのホーチミン港、ダナン港を訪問し、四日市港の D X 化促進の必要性などを実感した。国際拠点港湾としての四日市港が選ばれるための取組について聞きたい。
- 国際競争力のある港づくりの取組として、令和 3 年度より国と連携し耐震強化岸壁を有する「霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業」を進めている。当該整備事業を進めるに当たり、コンテナターミナルの生産性向上や労働環境改善に向け、既設のコンテナターミナルとの一体運用も見据えた施設配置計画や、A I 等を活用したターミナルオペレーションの最適化など、四日市港に見合った運営効率化の取組等について、港湾関係者と意見交換しながら検討をしている。コンテナ機能の集約化により、東南アジア航路等のコンテナ船の大型化にも対応でき、さらに大規模地震発生時にも海上輸送が可能となるなど、物流の生産性向上や地域産業の競争力強化、サプライチェーンの強靱化など港湾機能の強化が図られている。加えて、国が整備を進めるサイバーポートに参画するなど、デジタル技術の積極的な活用等による物流の効率化を目指した取組についても推進しているところである。
- 重要性は認識されているようで、戦略計画等にも方向性はあるが、実際にベトナムの港湾を視察し実態を見ると、非常に後進を走っていると実感した。もっと具体的に実効性の高い計画を立てて加速していかなければ、四日市港が選ばれなくなるのではないかなと思う。

松浦慶子議員



主な質問項目
・防災と減災対策について

- 防災と減災対策として、ハード面は耐震強化岸壁（W81）や、石原地区・塩浜地区の海岸保全施設整備事業の状況について、ソフト面は近隣地区の住民との合同での訓練など地域住民と共に行う防災や減災の取組について、聞きたい。
- 現在、四日市港では耐震強化岸壁が 2 バースあるが、いずれもバルク貨物を取り扱う岸壁のみで、コンテナを取り扱う耐震強化岸壁ができていない。そのため、耐震強化岸壁（W81）の工事を国直轄事業で進めている。令和 5 年度の補正が 88 億、令和 6 年度補正予算 46 億を確保した。石原地区・塩浜地区の海岸保全施設については、伊勢湾台風後に整備され随分老朽化したもので、周辺にはコンビナート、その周辺に住民が住んでおり、ここを守らなければならないということで、令和 6 年 4 月、国直轄事業に採択された。この直轄による海岸保全施設整備事業は日本全体で 8 港ほどしか行われておらず、一刻も早く完成させ住民の命、三重県・四日市市の経済を守れるようにしていきたい。
- 管理組合では、津波発生時などの緊急時に防潮扉の閉鎖をお願いしている地域の方々を対象とした防潮扉の閉鎖訓練等を実施している。さらに四日市港周辺の各地域において、地区防災組織や自主防災組織により実施される防災訓練などの機会に、防災や減災に関する出前講座の開催等の支援を行っている。
- 住民と産業を守るためということで、今後も引き続きお願いします。